

# さらば、T君



允文館 (岡崎教師塾) 塾長  
大久保慎一 氏

## 教育随想



平成 28 年 3 月 1 日

# 3 月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
允文館 (岡崎教師塾) 塾長 大久保慎一氏	
この人に聞く……………	2
万年青専門家 水野 圭子氏	
羅 針 盤……………	2
国語科指導員 鈴木紀予子	
ふれあい……………	3
福岡中 鶴田 咲子	
特 集……………	4
一年のあゆみ	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
本多光太郎博士の胸像建立 (昭和 33 年)	
この本を……………	8

二月十三日、二十七年度の允文館が閉講した。新教師が立出する。「百折不撓」の気概を貫いてほしい。

ところで、ある調査に、教職を目指すしながら、挫折のきつかけとなったのが「教育実習」だというのがあった。教師の仕事は垣間見て、「勤務時間が長い」「教職は忙しそう」「責任が重くて自信がない」「人間関係が大変そう」だというのがあった。理由ではあるまい。教職とは本来そういう苦労の上に成り立っている。ただ、折角、教職を目指しながら、子供たちとの真の出会いを知らずに棒に振るのは、いかにも残念だ。

平成十一年春、荒れる学校に赴任しT君と出会った。T君は、学校が変わっていく中央にいつも立っていた。卒業を前に、照れる本人に手紙をわたした。

四月五日、新任式直前、三階の廊下を闊歩する君を見た。それが

君との最初の出会いだ。小気味のいい子だと直感した。

次に出会ったのが、何とその一時間後だった。職員室の廊下に、君を含み十数人の子供たちが押し寄せ、これも十数人の先生と揉み合っていた。私は仲裁に入ったつもりだったが、いつしか君を壁に押しつけたのを感じている。君も必死だった。「離せ、離せ」の大声が今も耳に残る。

次の日、君はサッカーの朝練に精を出していた。そのとき、君から「校長先生、お早うございます」と挨拶をもらった。いろいろな風評を聞き、対応に苦慮していただけに、その声に、「学校は変わる」と確信したものだ。

それから、学校には、連日のように事件があった。だが、その度に君が助けてくれた。否、君にはその実感がなかったかもしれない。それどころか、他の子と一緒にあって、私を困らせたと思っていたらどうだろう。だが、

心の奥底で、君とは何か通じるものがあった

拙宅の玄関に、押し花を配した『額』がある。裏面に「感謝 ありがとうございます H12・3・7 T」とある。

(おおくぼ しんいち)



# この人に聞く



「万年青が描かれた浮世絵」

## おもと 万年青 常に青く輝き続けるために

万年青専門家

水野 圭子 氏

金や銀の細やかな装飾が施された黒楽鉢に鎮座する植物、万年青。葉の形や色、柄を楽しむスズラン科の植物である。その名のとおり、葉は一年中青く、約五十年の寿命をもつ。江戸時代に武士から町人へと広まり、今も根強い愛好家が存在する。「大学卒業後、家業を継ぐために家に入りました。でも、伝統園芸である万年青業界は、経験のない若い女性を簡単には受け入れてくれませんでした。」

両親の反対を押し切り家と万年青から離れたが、父の病をきっかけに実家に戻った。「残された時間、全身

全霊で万年青をおまえに教える」という父の言葉に応えようと、必死で万年青について学んだ。

「父の亡き後、父の古くからの客の中には、離れていった方もいます。」

万年青業者は、販売後も、手入れの仕方を助言したり、客が増やした苗を買い取ったりして付き合いが続く。父から学んだ確かな知識や技能があっても、自分の言葉を受け入れてもらえない日々が続いた。

「何もかもうまくいかなくて、父が生前、屋号である『宝生園』から名付けた『宝生』という万年青がどうしても好きになれなくなっただけです。すると、お客さんに株分けした『宝生』は元気なのに、家の『宝生』は全て傷んでしまったのです。うまくいかないことを相手のせいにしてばかりいた自分に、それではいけないと万年青が教えてくれたのだと思いました。それから、何事も自分の心のもちようだと考え、大変なことにも、楽しみを見つけて仕事ができるようになりました。」

逆境の中にあっても笑顔を保ち、万年青や客と誠実に向き合い続ける水野さんの姿に、次第に多くの客が信頼を寄せていった。

「万年青は伝統園芸で、あまり知られていませんし、愛好家は高齢化が進んでいます。でも、万年青には、



もっと多くの人に親しんでもらえる可能性があると思うのです。」

水野さんは、業界の紅一点として、女性ならではの視点で新風を吹き込む。東京での「江戸アートエキスポ」における万年青の植え込み体験と講習会には、参加できる人数を増やして対応するほどの反響があった。

「表参道のカフェで万年青をイメージした香りや風味のコーヒーをいれるイベントや、鑑賞している万年青の品種名を冠したカクテルを楽しむ『万年青バー』も企画しています。万年青に魅力を見出してきたわびさびの美意識は、今の日本人にも生きていくと思うのです。」

万年青の可能性と人とのつながりを広げ続ける水野さんは、万年青と共に生き生きと輝き続けていく。

氏名 水野 圭子  
生年月日 昭和三十九年十一月一日  
住所 岡崎市羽根町



## 教師の本懐

国語科指導員

鈴木紀予子

子供は、疑問に思う。「太一は、なぜ、クエを殺さなかったのだろう」と。「海のいのち」は読み取りが難解である。十の教室があれば十の読みがある。教師の確固たる教材解釈なしでは授業が迷走し、もやまと終わる。小学校での物語教材の集大成となる「海のいのち」は、立松和平が綴るドラマティックな文体、菌切れよいリズムが臨場感を生む。美しい色彩表現や情景描写が想像力をかき立て、高揚感を演出する。魅力ある物語だ。その授業は始めの挨拶から迫力があつた。子供が、そして教室の空気が、ぴんと張りつめていた。A教諭は、「太一がクエを、『殺したい』という気持ちから『殺さない』気持ちに変化したのは、どこか」と問うた。それに応えまっすく挙手し、意見を交わし合う。理由を一生懸命伝える



## クラスの一人として

福岡中 鶴田 咲子

「合唱コンクールには出ようかな。」  
A男は学校の適応教室で過ごしている。口数は少なく不安や心配などは家で話すため、母親を通してA男の思いを知ることが多かった。ところが十月になって、初めて自分から合唱コンクール出場を口にしたのだ。私は何とかその願いをかなえたいと思った。しかし、練習が近づく、「練習に入れるか」「本番はステージに立てるか」などA男の心配は次第に大きくなっていった。

そこで私はA男に「まずは練習だけでも参加してみよう」と声を掛けた。A男は黙って小さくうなずいた。練習初日、A男は緊張しているせいか、表情は硬く、額の汗は止まらなかった。その次の日、A男に前日の練習について尋ねると「まじめにやらない子がいてちよっと嫌だった」

と答えた。せつかく勇気を出して練習に出たものの、A男の顔は曇ったままだった。

意欲はあってもなかなか前に踏み出せないA男に、私は学級で一つのことを作り上げる喜びや達成感を味わわせたいと願った。

「初めからうまくいくことばかりではないよ。でも、ここからみんなできくりあげていくものなんだよ。A男も一緒に頑張ろうね。」

A男は私の目を見ながら深くうなずいた。また、クラスの全員にも私の願いを伝えた。

「今、A男はみんなと一緒に歌いたいと思つて挑戦しているところだよ。みんなにも協力してほしい。」

どの子も真剣に耳を傾けていた。そして私は、A男が多くの子と関わりがもてるように働きかけた。すると「A男の立ち位置を後ろの音が聴きやすいいちばん前にしてはどうか」と提案する子が現れた。進んでA男を練習に誘う子も増えてきた。

クラスの子の温かい働きかけで、A男は前向きな姿を少しずつ見せるようになっていった。「笑顔で歌おう」と何度も声を掛ける指揮者の真剣な思いに応えようと、微笑んで歌うA男の姿も見られるようになっていった。練習を重ねるうちに、クラスの一人として頑張ろうという気持ちがA男に芽

生えているのを感じた。

本番前日、A男は「大きく口を開けて、全力で頑張る」という目標を立てた。

「ここまでみんなと練習して来られたから大丈夫。」

そう言つてA男の背中を押した。

合唱コンクール本番、仲間と心を一つにして歌うA男は、いつもより凛々しく見えた。結果は最優秀賞。A男も加わつて得たこの賞はクラスの皆にとつても大きな意味があった。

「出られてよかった」と語るA男の表情は、クラスの一人として一つのことをやり遂げられた喜びと自信に満ちあふれていた。

そして今、教室には友達と楽しそうに給食を食べるA男の姿がある。



中で、教科書に何度も目をやり根拠となる叙述を探し出す。そのような授業は教室全体が発言者に集中する。熟考する時間が、静かに流れる。

A教諭は、さらに、山場の文章を短冊で示し、太一の心情に、思いを巡らせるように仕向けた。

『泣きそうになりながら』だけど、『ふつとほほえ』んだところです。泣くとほほえむは逆のこと。だから、ここで気持ちが変わったと思う』

話し合いを経て辿り着いた結論は、自分たちが導き出した読みの成果だと、子供たちは、拍手をして喜んだ。

腕のいい教師は、巧みなまでに、子供たちの疑問を取り上げ、発問を練りに練る。A教諭は課題の提示も見事だった。あつという間に子供を集中させた。教師がそつと後押しをして、豊かな読みの力を高めていることに子供たちは気づかず、自力で磨き合い、納得のいく結論を出したのだと思う。だから、子供はみな、自信に満ちた笑顔で授業を終えた。

A教諭は、考えを伝えることが苦手だと思つていた子供たちの、読みを深め合う姿を見て、心の底から感激していた。教師の授業にかける思いとたゆまぬ努力がその姿を導いた。これぞ、教師の本懐である。



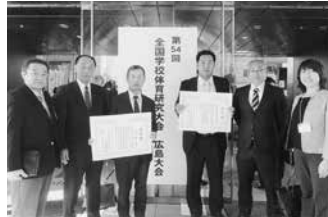




▲全国小・中学校作文コンクール 中央最終審査 読売新聞社賞 (甲山中)



▲全国野生生物保護実績発表大会 林野庁長官賞 (生平小)



▲全国学校体育研究大会 学校体育優良校 (岡崎小)



▲全日本合唱コンクール全国大会 同声合唱の部 銅賞 (六ツ美北中合唱部)

11・8	10・30	10・27	10・26	10・25	10・24	10・24	10・24	10・23	10・21	10・11	10・10	10・10	10・10	10・5	10・3	10・3	9・30	9・28	9・27	9・12	9・6	9・5		
第21回日本管楽合奏コンテスト	中学校管楽合奏部門	中学校管楽合奏部門	重奏部門	平成27年度CBCこども音楽コンクール	愛知県知事賞	形埜小	ボスターの部	朝日新聞厚生文化事業団賞	美川中1・石原璃子	第67回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	フラーワー・ブラボー・コンクール	秋花壇付帯学校花壇設計図コンクール	第50回読書感想文・読書感想画コンクール	読書感想文(総合学習センター)	第31回中学生のためのクラシックコンサート	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第21回日本管楽合奏コンテスト	中学校B部門	優秀賞	美川中	第82回NHK全国学校音楽コンクール	東海北陸大会
第21回日本管楽合奏コンテスト	中学校管楽合奏部門	重奏部門	平成27年度CBCこども音楽コンクール	愛知県知事賞	形埜小	ボスターの部	朝日新聞厚生文化事業団賞	美川中1・石原璃子	第67回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	フラーワー・ブラボー・コンクール	秋花壇付帯学校花壇設計図コンクール	第50回読書感想文・読書感想画コンクール	読書感想文(総合学習センター)	第31回中学生のためのクラシックコンサート	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第21回日本管楽合奏コンテスト	中学校B部門	優秀賞	美川中	第82回NHK全国学校音楽コンクール	東海北陸大会	

3・12	2・9	2・19	1・17	1・15	1・17	12・22	12・13	12・12	12・12	12・5	11・30	11・28	11・28	11・22	11・21	11・21	11・21	11・21	11・15	11・14	11・14	11・12	11・12		
第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館	第24回上廣道徳教育賞	豊田市文化会館

# お知らせ

## ●表彰

- ◆第62回こども音楽コンクール  
二位 北中 クラリネット四重奏
- ◆第42回東海アンサンブルコンテスト  
金賞(朝日新聞社賞)  
全国大会出場  
北中学校 金管八重奏
- ◆愛知県アンサンブルコンテスト  
金賞 竜美丘小 金管八重奏  
大樹寺小 金管八重奏
- ◆第8回岡崎ジュニアアンサンブルコンクール  
○コーラスの部  
小学校の部 梅園小C  
市長賞 根石小C  
議長賞 三島小C  
教育委員会賞 梅園小B  
東海愛知新聞社賞 根石小A  
おかざきの心の歌  
ミクスネットワーク賞  
中学校の部 竜海中C  
市長賞 六ツ美北中B  
議長賞 常磐中  
教育委員会賞 常磐中  
東海愛知新聞社賞 六ツ美北中C
- 管弦打楽器の部  
小学校の部 竜美丘小  
市長賞 クラリネット五重奏
- ◆第36回全国中学校スケート競技会  
○ファイギアスケート男子  
六位 竜海中 壺井 達也
- ◆第16回全国中学生創造ものづくり教育フェア  
○生徒作品コンクール  
全国家庭科教育協会会長賞  
岩津中 犬塚 美空  
優秀賞 東海中 野澤 里花  
常磐中 鈴木 愛美  
常磐中 山田 龍河  
常磐中 安元さや香  
常磐中 柴田 あみ
- パソコン入力コンクール



- ◆第43回人権を理解する作品コンクール  
○ポスターの部  
最優秀賞 梅園小 島 遥日  
優秀賞 根石小 太田 翔也
- ◆第61回青少年読書感想文愛知県コンクール  
毎日新聞社奨励賞  
甲山中 水野 桜子
- ◆第27回読書感想文愛知県コンクール  
優秀賞 美合小 柴田 玄輝  
小豆原小 山中 花
- ◆第51回岡崎市小中学校読書感想文・読書感想画コンクール  
○読書感想文の部  
市長賞 矢作北小 谷口 彩華  
男川小 堀田穂乃香  
甲山中 水野 桜子  
市議会議長賞 中川 愛菜  
岩津小 山下希々華  
矢作南小 相澤 梓紗  
六ツ美北中
- 創造アイデアロボットコンテスト「基礎部門」  
三位 常磐中 中根 瑠南  
五位 常磐中 山本 葵  
五位 常磐中 半田 琳子  
五位 常磐中 安藤 壱真  
常磐中 山本 茜  
常磐中 深田 脩斗
- 全国中学校産業教育教材振興協会会長賞(三位)  
福岡中 恐神わかば  
福岡中 蜂須賀健太  
福岡中 奥野 真衣  
福岡中 根本宗一郎  
福岡中 島田 晴亘  
福岡中 川島 佳奈

## ●少年自然の家だより

春よ来い  
 暦の上では立春を過ぎたが、まだまだ冬の寒さが身にしみる。この寒さの中木々はその幹に年輪を刻む。寒さが厳しければ厳しいほどその年輪は深く刻まれる。  
 ここ少年自然の家でも、見上げるような樹木は、その幹に幾筋もの年輪を刻み、乗り越えてきた冬の数だけ強くなったましくなっている。逆に、日照不足か病気が、枯れ果てている樹木や強風のために折れて落ちてきそうな木も数多い。これら樹木の伐採や山道の整備には、多くの時間をかけている。  
 そして、子供たちが活動するウォークラリーやフィールドウォーク、オリエンテーリング等の目印の点検、さらに、飯ごうやなべ、鉈にいたるまで洗う、修理、刃を研ぐなどの作業も毎日の日課となる。  
 このように、各学校を四月から迎え、教育効果の高い活動



動ができるように、丁寧な準備をしている。  
 また、厳しい冬を迎え乗り越えてこそ鍛えられ成長する樹木に負けないように、少年自然の家の職員一同もひとまわり成長し、たくましくなつて元気な子供たちを迎えようとしている。  
 さて、西側境界道の真下で行われていた新東名高速道路の工事が終わり、二月十三日に開通をした。展望台から見える壮大な新東名高速道路も少年自然の家の新たな名所になることが予想される。来年度少年自然の家を利用される来所者には、是非、ハイキングやウォークラリーなどのコースに展望台を加え、新しい高速道路を上から見るプランを勧めたい。

平成27年度教育研究論文入賞者

●個人研究の部

最優秀賞

Table with columns: 氏名, 学校名, 教科領域, 研究主題. Includes authors like 武藤 良子 and 大野 孝輔.

優秀賞

Large table listing numerous award winners with columns for name, school, subject, and research theme.

〈論文入賞者数〉

Summary table of award counts by school level (小学校, 中学校) and category (個人, 共同).

佳作

Large table listing '佳作' (Honorable Mention) winners with columns for name, school, subject, and research theme.

●共同研究の部

最優秀賞

Table for the best award in the joint research section, listing 亀山奈穂子 and her research topic.

優秀賞

Table listing other award winners in the joint research section, including 藤川小 and 山中小.

佳作

Table listing '佳作' winners in the joint research section, including 成樹 and 岩瀬.



・カ  
ツ  
ト  
六ツ美南部小 山中好乃

# 本多光太郎博士の胸像建立 (昭和33年)

写真提供：矢作南小学校

写真は、昭和三十三年に矢作南小学校に建立された本多光太郎博士の胸像と、その建立に携わった人々の姿である。同校では、光太郎博士の命日である二月十二日を「本多光太郎の日」と定めている。氏の生き方に学ぶ道徳の時間や特別活動の授業に積極的に取り組み、「つとめてやむな」の精神を培っている。

岡崎の理解を深め、郷土への愛着や誇りを育む「岡崎の心の醸成」は、当時から具現化され、今に受け継がれている。岡崎に関わる人・こと・ものに学び、自らの生き方を考え、志を立てる子供の育成を真摯に進めたい。



友と共に作りあげる喜びや達成感を味わいたい。クラスの一員であることを誰もが実感できる温かい学級にしたい。合唱コンクールはそのための絶好の機会である。我々教師は子供たち一人一人の存在を大切に思っ  
て指導することが肝要である。この一年、どの子も輝く学級づくりができたかを振り返りたい。

ほんのりと香る梅花の花。春を感じる季節となり、卒業生との別れが近づいたことを感じる。六年前に大きなランドセルを背負ってくぐった校門。その門から巣立つ姿に六年間の成長がある。晴れやかな笑顔の向こうにあるであろう、学校を去る寂しさや行く手への期待と不安。重ねた歳月が成長や活躍を支えることを願う。

## どホ

## 弥生



(春の花壇 竜美丘小)

常に青々と葉を広げる万年青。一年の月日をかけて、ようやく一二枚の葉を伸ばす。万年青は、人のようだと水野さんは語る。変化を見落とさず、声をかけ、最善の手を尽くすことで健やかに育つそうだ。万年青を見つめる温かなまなざしが心に残る。子供たちをよく見つめ、良さを引き出し、成長を支え続ける教師でありたい。



\* コーチングとは「信じること」 生島 淳  
文藝春秋 ￥1,100

心に残った一文  
私にとってコーチングは「アート」です。

ラグビーワールドカップで、日本が南アフリカから勝利をつかんだ。ヘッドコーチ、エディー・ジョーンズのコーチングが奇跡を生んだ。彼は、計画的に、緻密に、そして、劇的に日本チームを変えた。選手の個性によってコーチングを使い分け、能力を最大限に引き出した結果である。まさにアート。

コーチングは、あらゆる組織に必要な。組織を変えるためには、彼のような情熱とスキルがいる。彼は「常に物事は動き、変化する。同じことは二度と起きない」との信念をもち、コーチングを進化させるために、いつも新しいことに挑戦している。広い視野をもち、過去に学び、未来を想定する。学ぶべき姿勢だ。

- \* 今こそ感性は力 行徳 哲男・芳村 思風 致知出版 ￥1,500
- \* 「育てる人」からもらった6つのヒント 池上 彰 帝国書店 ￥1,000
- \* プロの条件 藤尾 秀昭 致知出版 ￥952

根石小 中野渡善樹